



## 2023年3月期 第3四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

2023年2月14日

上場会社名 アルテリア・ネットワークス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4423 URL <https://www.arteria-net.com>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 株本 幸二  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員CFO (氏名) 建石 成一 TEL 03 (6823) 0349  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月14日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		税引前利益		四半期利益		親会社の所有者に帰属する四半期利益		四半期包括利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	43,457	7.9	6,824	△9.7	6,571	△10.7	4,635	△9.2	4,332	△10.3	4,635	△20.9
2022年3月期第3四半期	40,283	3.0	7,559	19.1	7,354	21.6	5,105	22.1	4,828	23.5	5,864	38.2

	基本的1株当たり 四半期利益	希薄化後1株当たり 四半期利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	86.81	-
2022年3月期第3四半期	96.72	-

#### (2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	101,548	29,115	27,310	26.9
2022年3月期	99,081	27,930	26,017	26.3

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	-	29.00	-	31.45	60.45
2023年3月期	-	30.26	-	-	-
2023年3月期（予想）	-	-	-	30.26	60.52

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	58,000	4.7	9,650	1.1	9,311	0.7	6,436	0.4	6,050	0.3	121.04

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	50,000,000株	2022年3月期	50,000,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	59,542株	2022年3月期	112,766株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	49,913,552株	2022年3月期3Q	49,920,405株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の実績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想の利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	4
3. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 要約四半期連結財政状態計算書 .....	5
(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 要約四半期連結持分変動計算書 .....	9
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	11
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間においてはウィズコロナの下で景気は緩やかに持ち直しております。一方、ウクライナ情勢の長期化や物価の上昇が続く中、供給面での制約や世界的な金融の引き締めによる景気の下振れリスクに引き続き注視する必要があります。

当社グループが事業展開する情報通信関連市場においては、クラウド利用の拡大やテレワークの普及により新たな高速通信やセキュリティの高いネットワークサービスなどへの需要が引き続き発生しております。

このような事業環境のもと、主力サービスの売上は引き続き順調に推移しております。

なお、前期に発生したデータセンター事業の譲渡益(約15億円)の影響を除く主力サービスは、月額請求売上(リカーリング収益)を中心に増収基調を継続しており、加えて構造改革によるコスト抑制により売上総利益は順調に拡大しております。

インターネットサービスにおいては、FTTx、ISP向けサービスの売上が前年と比較し伸長し、IP電話サービスの売上は前年と比較し減少いたしました。その結果、インターネットサービス全体の売上は順調に拡大いたしました。

FTTxサービスでは、昨年度から引き続き、クラウド利用の拡大やテレワークの普及が進んでおり、上下最大10Gbpsのインターネット接続サービスの提供エリアをお客様からの接続・広帯域サービスの需要が多い神奈川県及び群馬県館林市へ拡大いたします。

ISP向けサービスにおいても高品質なサービス需要は増大しており、クロスパス(注1)の提供が拡大いたしました。

ネットワークサービスにおいても、主力サービスである専用線、VPNサービスの売上が前年と比較し伸長しました。

専用線サービスでは、引き続き、DXを推進している一般企業やその他OTT、通信事業者による信頼性、品質、セキュリティが高い回線サービスの需要が拡大していることを背景に売上が増加しております。また、当社は東名阪やデータセンター集積地など需要の多いエリアにおいてネットワーク増強を継続して行っております。

VPNサービスではクラウドサービスやモバイルデバイスの利用が拡大する中で、クラウド接続サービス、自社回線の高品質サービス、モバイルアクセスサービスなどの売上が増加しております。さらにNFV(注2)サービスVANILA(パニラ)では継続してサービスラインアップを拡充することにより受注は増加しております。

マンションインターネットサービスにおいては、分譲市場、賃貸市場ともに順調に売上を拡大しております。マンションの各住戸まで上下最大10Gbpsを実現する全戸一括インターネットサービスの提供を開始するなど、高速・高品質インターネット接続サービスのニーズに対応すべく、サービスラインアップの拡充を進めております。

分譲市場では、全戸一括型サービスの導入割合は増加傾向にあり、当グループは安定した受注を堅持しております。

また、賃貸市場においても在宅勤務や動画配信サービスの普及により高品質サービスの需要が増加していることから、小規模集合住宅に特化したサービス「Five.A」と住戸ごとに優先ルートによる接続を可能にする通信サービスConnectixとの組み合わせによる受注が増加しております。

DXサービスにおいて、Connectixはマンションインターネットサービスの導入における他社との差別化にも貢献しており、サービス提供可能棟を順次拡大させています。さらに、第1四半期に持分法適用した株式会社GameWithが提供するeスポーツ向け高品位ISPサービスであるGameWith光の受注は順調に拡大しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比3,173百万円(7.9%)増収の43,457百万円となり、営業利益は前年同期比735百万円(9.7%)減益の6,824百万円、税引前四半期利益は前年同期比783百万円(10.7%)減益の6,571百万円、親会社の所有者に帰属する四半期利益は前年同期比495百万円(10.3%)減益の4,332百万円となりました。

(注1) NTT東日本、NTT西日本のフレッツに対応した定額制インターネット接続サービス。NTT東西の光コラボレーション事業者の回線にも対応。

(注2) 仮想技術等を用いてネットワーク機能を抽象化することで、物理的な制約なく柔軟な機能提供を可能に

する技術。

(2) 財政状態に関する説明

	前連結会計年度末	当第3四半期 連結会計期間末	増減
資産合計(百万円)	99,081	101,548	2,466
資本合計(百万円)	27,930	29,115	1,185
資本(親会社の所有者に 帰属する持分)(百万円)	26,017	27,310	1,293
親会社所有者 帰属持分比率(%)	26.3	26.9	0.6
借入金残高(百万円)	36,163	38,952	2,788

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末比2,466百万円増加の101,548百万円となり、親会社の所有者に帰属する持分は、前連結会計年度末比1,293百万円増加の27,310百万円となりました。この結果、親会社所有者帰属持分比率は26.9%となりました。

また、借入金残高は新規借入により、前連結会計年度末比2,788百万円増加の38,952百万円となりました。

当期のキャッシュ・フローの概況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前年同期比3,266百万円減少の3,661百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

法人所得税の支払額の減少等により、前年同期比1,016百万円収入が増加し、8,704百万円の収入となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

有形固定資産の売却による収入の減少及び投資有価証券の売却による収入がなかったことに加えて、持分法適用会社株式の取得による支出があったことにより、前年同期比6,294百万円支出が増加し、10,142百万円の支出となりました。

以上により、当第3四半期連結累計期間のフリー・キャッシュ・フロー(※)は前年同期比5,277百万円減少し、1,438百万円の支出となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

短期借入を行ったこと及び前連結会計年度より中間配当金の支払を開始したことによる配当金の支払額の減少により、前年同期比5,123百万円支出が減少し、2,743百万円の支出となりました。

(※) フリー・キャッシュ・フロー＝営業活動によるキャッシュ・フロー＋投資活動によるキャッシュ・フロー

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結損益状況につきましては、売上高58,000百万円(前年同期比4.7%増)、営業利益9,650百万円(同1.1%増)、親会社の所有者に帰属する当期利益6,050百万円(同0.3%増)を予想しており、2022年5月13日に「2022年3月期 決算短信」で開示した通期の連結業績予想から変更していません。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、資本市場における財務情報の国際的な比較可能性及び利便性の向上を図るため、2017年3月期より国際財務報告基準(IFRS)を適用しております。

## 3. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 要約四半期連結財政状態計算書

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
	百万円	百万円
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	7,781	3,661
営業債権及びその他の債権	8,258	9,243
その他の金融資産	5	58
棚卸資産	275	469
その他の流動資産	2,395	2,393
流動資産合計	18,715	15,826
非流動資産		
有形固定資産	41,775	45,833
のれん	12,646	12,646
無形資産	15,052	14,753
持分法で会計処理されている投資	-	1,792
その他の金融資産	8,017	7,757
繰延税金資産	1,923	1,503
その他の非流動資産	950	1,433
非流動資産合計	80,365	85,721
資産合計	99,081	101,548

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
	百万円	百万円
負債及び資本		
負債		
流動負債		
借入金	36,163	38,952
営業債務及びその他の債務	7,655	8,430
リース負債	2,630	2,131
未払法人所得税等	2,519	794
引当金	182	182
その他の流動負債	4,611	4,761
流動負債合計	53,762	55,252
非流動負債		
長期リース負債	8,508	8,450
退職給付に係る負債	906	994
引当金	3,704	3,772
繰延税金負債	2,320	2,184
その他の非流動負債	1,948	1,777
非流動負債合計	17,388	17,180
負債合計	71,151	72,432
資本		
資本金	5,150	5,150
資本剰余金	4,703	4,744
利益剰余金	16,485	17,738
自己株式	△322	△322
その他の資本の構成要素	△0	0
親会社の所有者に帰属する持分合計	26,017	27,310
非支配持分	1,913	1,804
資本合計	27,930	29,115
負債及び資本合計	99,081	101,548

## (2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書

(要約四半期連結損益計算書)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
	百万円	百万円
売上高	40,283	43,457
売上原価	27,439	29,590
売上総利益	12,844	13,866
販売費及び一般管理費	6,718	7,471
その他の収益	1,590	549
その他の費用	157	120
営業利益	7,559	6,824
金融収益	155	96
金融費用	360	364
持分法による投資利益	-	15
税引前四半期利益	7,354	6,571
法人所得税費用	2,249	1,936
四半期利益	5,105	4,635
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	4,828	4,332
非支配持分	277	302
四半期利益	5,105	4,635
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益(円)	96.72	86.81
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	-	-



## (要約四半期連結包括利益計算書)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
	百万円	百万円
四半期利益	5,105	4,635
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定する金融資産	758	0
純損益に振り替えられることのない項目合計	758	0
税引後その他の包括利益	758	0
四半期包括利益	5,864	4,635
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	5,586	4,333
非支配持分	277	302
四半期包括利益	5,864	4,635

## (3) 要約四半期連結持分変動計算書

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

	親会社の所有者に帰属する持分					
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	
					その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	合計
百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	
2021年4月1日時点の残高	5,150	4,663	13,765	△79	109	109
四半期利益	-	-	4,828	-	-	-
その他の包括利益	-	-	-	-	758	758
四半期包括利益合計	-	-	4,828	-	758	758
利益剰余金への振替	-	-	868	-	△868	△868
自己株式の取得	-	-	-	△242	-	-
配当金	-	-	△4,214	-	-	-
株式報酬取引	-	29	-	-	-	-
所有者との取引額合計	-	29	△3,346	△242	△868	△868
2021年12月31日時点の残高	5,150	4,693	15,247	△322	△0	△0

親会社の所有者に帰属する持分

非支配持分 合計

合計

	百万円	百万円	百万円
2021年4月1日時点の残高	23,608	1,922	25,531
四半期利益	4,828	277	5,105
その他の包括利益	758	-	758
四半期包括利益合計	5,586	277	5,864
利益剰余金への振替	-	-	-
自己株式の取得	△242	-	△242
配当金	△4,214	△423	△4,638
株式報酬取引	29	-	29
所有者との取引額合計	△4,426	△423	△4,850
2021年12月31日時点の残高	24,768	1,776	26,545

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

## 親会社の所有者に帰属する持分

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	
					その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	合計
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
2022年4月1日時点の残高	5,150	4,703	16,485	△322	△0	△0
四半期利益	-	-	4,332	-	-	-
その他の包括利益	-	-	-	-	0	0
四半期包括利益合計	-	-	4,332	-	0	0
配当金	-	-	△3,080	-	-	-
株式報酬取引	-	40	-	-	-	-
所有者との取引額合計	-	40	△3,080	-	-	-
2022年12月31日時点の残高	5,150	4,744	17,738	△322	0	0

## 親会社の所有者に帰属する持分

非支配持分 合計

合計

	百万円	百万円	百万円
2022年4月1日時点の残高	26,017	1,913	27,930
四半期利益	4,332	302	4,635
その他の包括利益	0	-	0
四半期包括利益合計	4,333	302	4,635
配当金	△3,080	△411	△3,491
株式報酬取引	40	-	40
所有者との取引額合計	△3,039	△411	△3,450
2022年12月31日時点の残高	27,310	1,804	29,115

## (4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
	百万円	百万円
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	7,354	6,571
減価償却費及び償却費	6,469	7,076
金融収益	△155	△96
金融費用	360	364
持分法による投資損益(△は益)	-	△15
固定資産除却損	119	93
営業債権及びその他の債権の増減額	238	△586
棚卸資産の増減額(△は増加)	△24	△261
営業債務及びその他の債務の増減額(△は減少)	△535	△317
固定資産及び無形資産売却損益(△は益)	△1,498	△380
その他	△709	△247
小計	11,619	12,201
利息の受取額	40	52
配当金の受取額	68	-
利息の支払額	△266	△289
法人所得税の支払額	△3,774	△3,260
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,687	8,704
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△6,200	△7,564
有形固定資産の売却による収入	1,919	274
有形固定資産の処分による支出	△277	△197
無形資産の取得による支出	△675	△767
無形資産の売却による収入	-	50
持分法で会計処理されている投資の取得による支出	-	△1,776
投資有価証券の売却による収入	1,500	-
その他	△113	△161
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,848	△10,142
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	-	4,000
長期借入金の返済による支出	△1,120	△1,272
リース負債の返済による支出	△1,855	△2,045
配当金の支払額	△4,211	△3,077
非支配持分への配当金の支払額	△423	△411
自己株式の取得による支出	△242	-
その他	△13	63
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,866	△2,743
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	61
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△4,028	△4,119
現金及び現金同等物の期首残高	10,957	7,781
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,928	3,661

(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

要約四半期連結財務諸表の作成において、経営者は、会計方針の適用並びに資産、負債、収益及び費用の金額に影響を及ぼす判断、見積り及び仮定の設定を行うことが義務付けられております。実際の業績は、これらの見積り及び仮定とは異なる場合があります。

見積り及びその基礎となる仮定は継続して見直されます。会計上の見積りの変更による影響は、その見積りを変更した会計期間及び影響を受ける将来の会計期間において認識されます。

本要約四半期連結財務諸表の金額に重要な影響を与える判断、見積り及び仮定は、前連結会計年度に係る連結財務諸表と同様であります。